

古河電気工業(株) 第 198 回定時株主総会 主な質疑応答録 (要旨)

※要旨公開にあたり、趣旨が明確となるよう () 書きにて補足させていただいている箇所がございます。

日時：2020年6月23日(水) 10:00~10:39

Q：新規事業のマーケットポテンシャルと現状について。特にデジタルコヒーレント、周辺監視用レーダ、SuperPower Inc. (米国子会社) の見込みについて

A：5G 社会を支えるのは光ファイバネットワークであり、その大容量化、高速化が必須の技術になると考える。この技術の一つの大きな柱がデジタルコヒーレントの技術であり、今後さらに事業として伸ばしていく。ロードマップとしては、現在 100~400G の伝送速度のものが一般に使われているが、今後 5G の進展とともに 800G、さらにはその上という形で伝送速度が上がっていくと予想しており、そのための技術開発を進めている。

自動車業界における CASE の領域の中で、周辺監視レーダは最重要製品と考えている。当社は国内唯一のレーダメーカーとして、受注、量産を進めている。近傍の検知に加えて、バンパーのデザインを阻害しないことも特徴の一つである。本市場は今後のさらなる成長が見込まれており、その中でしっかりと需要を取り込んでいく。

当社(グループ)は、低温と高温の超電導に対応できることから、シナジー効果を出し規模感のある事業にしていきたいと考えている。SuperPower Inc. (米国子会社)は高温超電導製品の製造・販売を行っており、2月には新工場を立ち上げた。用途のうち、Co2の排出が少なく、安全なエネルギーと期待されている核融合の用途についてはかなりの規模を期待できると考えており、その量産を開始するところである。

以上